

平成15年10月3日

水産庁  
独立行政法人水産総合研究センター  
東北区水産研究所

## 平成15年度東北海区サバ長期漁海況予報

- 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所  
がとりまとめた結果 -

今後の見通し(2003(平成15)年10月～12月)

来遊量予測

1歳魚(2002年級群)前年を大きく上回るが、0歳魚(2003年級群)は前年を下回る。全体では前年を上回る。

1. 本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>), 水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/gk14/14gkindex.htm>)に掲載されます。

2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。

水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当:竹葉・狭間

住所:〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1

電話:03-3502-8111(内線7376) 03-3501-5098(直通)

ファックス:03-3592-0759

電子メール:toru\_hazama@nm.maff.go.jp

水産総合研究センター東北区水産研究所企画連絡室

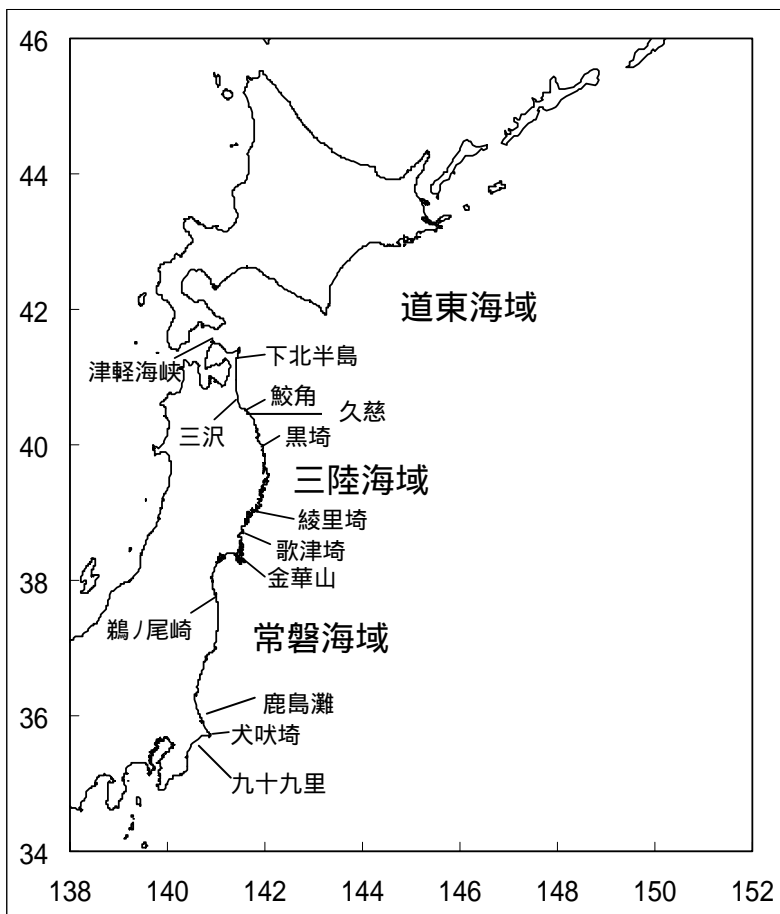
住所:〒985-0001 塩釜市新浜町3-27-5

電話:022-365-7196 ファックス:022-367-1250

電子メール:kiren@myg.affrc.go.jp

### 参画機関

北海道立釧路水産試験場	水産庁漁場資源課 沿岸沖合課
北海道立函館水産試験場	
青森県水産総合研究センター	独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所
岩手県水産技術センター	中央水産研究所 東北区水産研究所
宮城県水産研究開発センター	
福島県水産試験場	
茨城県水産試験場	
千葉県水産研究センター	
(社)漁業情報サービスセンター	



参考 . 東北海区の地形図

# 東北海区サバ漁況予報

## 今後の見通し(2003(平成15)年10月～12月)

対象海域:三陸～常磐～犬吠埼周辺海域

対象漁業:まき網

対象魚群:マサバ、ゴマサバ 0歳魚(2003(平成15)年級群)、1歳魚(2002(平成14)年級群)、2歳魚(2001(平成13)年級群)、3歳魚(2000(平成12)年級群)以上。魚体の大きさは尾叉長で表示。

### (1)来遊量

マサバ、ゴマサバとも、0歳魚は前年を下回る。1歳魚は前年を大きく上回る。2歳魚以上は少ない。さば類全体では、前年を上回る。ゴマサバの割合は前年に比べて低い。

### (2)漁期・漁場

10月は、三陸海域で1歳魚を中心に断続的に漁場が形成される。11月以降、0歳魚の沖合からの来遊によって三陸から常磐海域で、断続的かつ小規模な漁場が形成される。12月には犬吠埼周辺海域が中心となる。

### (3)魚体

マサバ、ゴマサバとも26～32cmの1歳魚を中心に、25cm以下の0歳魚が加わる。

## 漁況の経過(2003(平成15)年7月～9月)および見通しについての説明

### 1. 漁況の経過

#### (1)まき網漁業

7月上旬は犬吠埼周辺で漁場が形成され、前半はゴマサバ、後半はマサバを中心としてまとめて漁獲された(2,428トン)。中下旬になると鹿島灘から九十九里沖にかけて漁場が広がり、マイワシ、アジ混じりで低調(少量～30トン/隻)となった。マサバの魚体は26～28cm、ゴマサバは26～29cmが主体であった。

8月になると主漁場が金華山～常磐北部と北へ移り、少量～110トン/隻の漁獲があった。その他鹿島灘でも低調ながら漁獲がみられた。漁獲物は26～29cmのマサバ1歳魚主体であった。

9月2日には久慈沖で15～30トンの漁獲が見られたが、9月上旬以降の主漁場は三陸南部～常磐北部で少量～120トン/隻の漁獲であった。漁獲物は、マサバの割合が高く、28～30cmの1歳魚に0歳魚も混じるようになった。29、30日には鮫角、綾里崎沖で主としてマサバ1歳魚がまとめて漁獲され、この2日間の水揚量は八戸で計2,826トンであった。

東北海域における7～9月の漁獲量は、14千トンであり、前年同期実績(2千トン)を上回った。漁業情報サービスセンターがとりまとめているまき網CPUEに基づく資源量指数は、7～9月平均で212.4と、前年同期の24.4を大きく上回った。

#### (2)その他の漁業

岩手県、宮城県の設定網による7-9月中旬までのさば類の漁獲量はそれぞれ1.6千、3.5千トンであり、前年同期実績(3.7、3.5千トン)と比較し岩手県では半分以下であった。漁獲物は29～31cmモードの1歳魚が主体で、これに35cm以上の2歳魚以上も混じた。8月には19～21cmモードの0歳魚が漁獲され始めた。ゴマサバの割合は昨年比べて低かった。道東海域周辺のサンマ棒受網漁業ではこれまでのところ、さば類0歳魚(2003年級群)の混獲は稀である。

### 2. 調査船調査結果

(1) 北海道立釧路水産試験場(北辰丸)が、道東～三陸沖において6～7月に流し網によって行った漁期

前調査では、さば類1歳魚のみ(8回の操業で64尾、26~39cm、27cmモード)が漁獲された。また、9月の漁期中調査では7回の操業でさば類0歳魚のみ計139尾(16~23cm、20cmモード)が漁獲された。本年の漁期中調査のCPUE(試験1回当たり漁獲尾数)はマサバ0歳魚については17.1尾/回であり昨年と同等の値(2002年;17.0尾/回)であり過去10年では4番目に高い値であった。一方、ゴマサバは2.7尾/回であり昨年を下回り(2002年;97.7尾/回)、過去10年では8番目であった。漁期前調査のCPUEは各年の加入豊度の指標となることが知られており、その結果から2003年級群の加入豊度はマサバについては近年では比較的高いものの、ゴマサバは低いと判断される。

(2)東北水研(用船北鳳丸;北海道実習船管理局所属)が、道東~三陸沖において8月30日~9月24日の期間に中層トロール調査を行った結果、48回の曳網でさば類は計2,954尾漁獲された。ほとんどが19cmモードの0歳魚でありマサバの割合が89%と高かった。27~32cmの1歳魚は沿岸でごくわずか(2地点で5尾)漁獲されたのみであった。従って、さば類(特にマサバ)の北方や沖合から沿岸漁場域へ来遊する魚群は0歳魚主体と考えられる。

北海道~東北海域において1987~2002年に行われた秋季の流し網漁獲調査の結果から、0歳魚は加入豊度の高い年には広範囲に高い密度で分布するために、調査海域の広い範囲で漁獲され、有漁獲点割合(漁獲のあった調査点/全調査点)が高くなる傾向が知られている。本調査は、2001年以降は、調査効率の向上を目的として中層トロールにより実施している。2001年の調査における0歳魚(2001年級群)は有漁獲点割合が12.5%と低く、加入豊度は低いと推定された。このことは中央水研のコホート解析による結果でも、加入豊度は近年でもっとも低いレベルと推定されたことから裏付けられている。2002年級群は有漁獲点割合が56.3%と比較的高く、加入豊度は近年では比較的高いと推定されている。このように中層トロール調査による有漁獲点割合と加入豊度との間には相関関係があるものと考えられる。本年調査での2003年級群は、出現率が25%と高くないが、152°Eのはるか東方沖で大量の漁獲もみられており、加入豊度は低いものの近年における最低レベルではないと判断される。

流し網漁獲調査によるさば類0歳魚、1歳魚以上それぞれの有漁獲点割合および平均漁獲尾数と東北海区における南下期のさば類まき網漁獲尾数との間には有意な関係がある。また流し網と中層トロールの比較試験から漁法間の漁獲尾数の関係が得られている。これらの関係を基にして9-12月のさば類まき網漁獲尾数を推定したところ1.9億尾と推定され、前年を上回る結果が得られた。

### 3. 今後の見通しの説明

#### (1)来遊量

マサバ、ゴマサバ2、3歳魚(2001、2000年級群)の残存資源量は少なく来遊量は低水準である。

マサバ、ゴマサバ1歳魚(2002年級群)は、6月以前の調査船調査結果などからも豊度が高いと判断されており、7~9月に前年を大きく上回る漁獲がみられた。従って残存資源量は極めて少なかった前年度の1歳魚(2001年級群)よりかなり多いことから来遊量は多い。

マサバ0歳魚(2003年級群)は、8月には沿岸のまき網漁場にも分布しており、9月の釧路水試で行われた流し網のCPUEでは2002年並み、東北水研の中層トロールによる有漁獲点割合は2002年を下回る結果であったことから、来遊量は前年を下回るが極端に少ないということはない。ゴマサバ0歳魚も東北~北海道沖合で分布が確認されているが、マサバ同様に前年を下回る。

8~9月のまき網の漁獲物(1歳魚主体)ではマサバの割合が高かったこと、調査船の調査結果から0歳魚もマサバの割合が高いことから、今後もマサバが主体になる。

#### (2)漁期・漁場

1歳魚以上は沖合での分布がほとんどみられないことから、沖合からの来遊は期待できず、7~9月と同様に10月は三陸を中心とした海域で、沿岸の魚群による散発的な漁場が形成される。0歳魚は沖合域まで広く分布が見られ、11月以降、三陸海域へ南下する親潮第1分枝、あるいは沖合の親潮第2分枝から魚群が三陸南部~常磐へ来遊するが、来遊量は少なく、断続的で小規模な漁場形成となる。12月には漁場の中心は犬吠周辺海域となる。

#### (3)魚体

7~9月に漁獲の主体となっていた1歳魚は体長組成の推移から26~33cm程度であり、0歳魚の来遊量の増加により、魚体組成は25cm以下の小型魚の比率が高まる。

表1. 2003年7～9月のまき網による県別さば類水揚げ量(t)。(カッコ内は定置網などその他による漁獲)

	千葉	茨城	福島	宮城	岩手	青森	計
7月	5,961	36	170 (0)	0 (984)	0 (187)	0 (0.3)	6,167 (1,172)
8月	189	81	0 (0)	1,630 (1,199)	0 (468)	0 (0.1)	1,900 (1,667)
9月	922	0	0 (0)	1,714 (1,383)	0 (1,614)	178 (0.0)	2,814 (2,997)
計	7,072	117	170 (0)	3,344 (3,566)	0 (2,270)	178 (0.4)	10,881 (5,836)

各県資料・JAFIC速報値 9月()内は20日まで (むつ湾平館定置)

表2. さば類の東北海区におけるまき網による漁獲量(トン)

月\年	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
1	0	0	2,447	38,086	1,619	6,306	9,076	42,283	521	2,983	821	10,882	7
2	0	8	594	172	0	3,520	24,264	3,700	1,839	1,383	15,084	4,959	766
3	0	0	379	642	363	229	31,338	64	3,240	1,738	18,629	0	127
4	5	0	8,070	2,200	0	15,396	25,071	13,096	5,244	20,049	7,765	0	7,809
5	0	0	4,676	8,830	838	13,685	42,161	23,166	5,532	5,786	20,083	0	3,649
6	0	0	20,010	2,211	1,749	11,164	28,933	14,905	2,548	1,765	2,098	23	2,136
7	49	0	3,901	15	2,083	8,233	3,881	8,769	155	4,356	3,397	271	6,291
8	6	728	18,197	5,218	16,007	2,253	10,362	19,008	8,441	2,732	10,780	745	1,915
9	648	1,815	66,901	28,869	10,923	7,349	23,162	13,969	8,261	8,443	12,823	1,241	(6,038)
10	578	863	79,575	12,791	10,495	23,979	45,916	19,312	8,859	15,385	13,404	3,399	
11	144	7,213	49,657	8,391	4,386	8,000	75,828	18,866	6,936	10,331	18,495	5,840	
12	1,520	3,665	73,559	12,753	17,729	4,979	37,763	8,585	8,849	4,749	17,084	21,773	
7-9月計	703	2,543	88,999	34,102	29,013	17,835	37,405	41,746	16,857	15,531	27,000	2,257	14,244
年計	2,950	14,292	327,966	120,178	66,192	105,093	357,755	185,723	60,425	79,700	140,463	49,133	(22,700)

北部太平洋海区まき網漁業組合集計値(一部修正)、および各県水試資料・JAFIC速報値 9月()は速報値

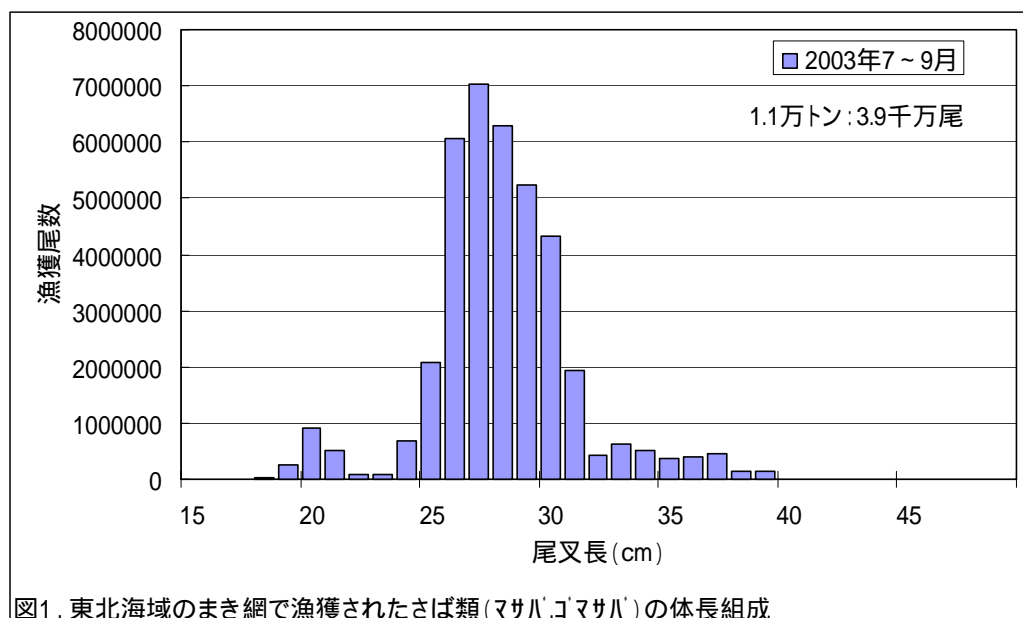
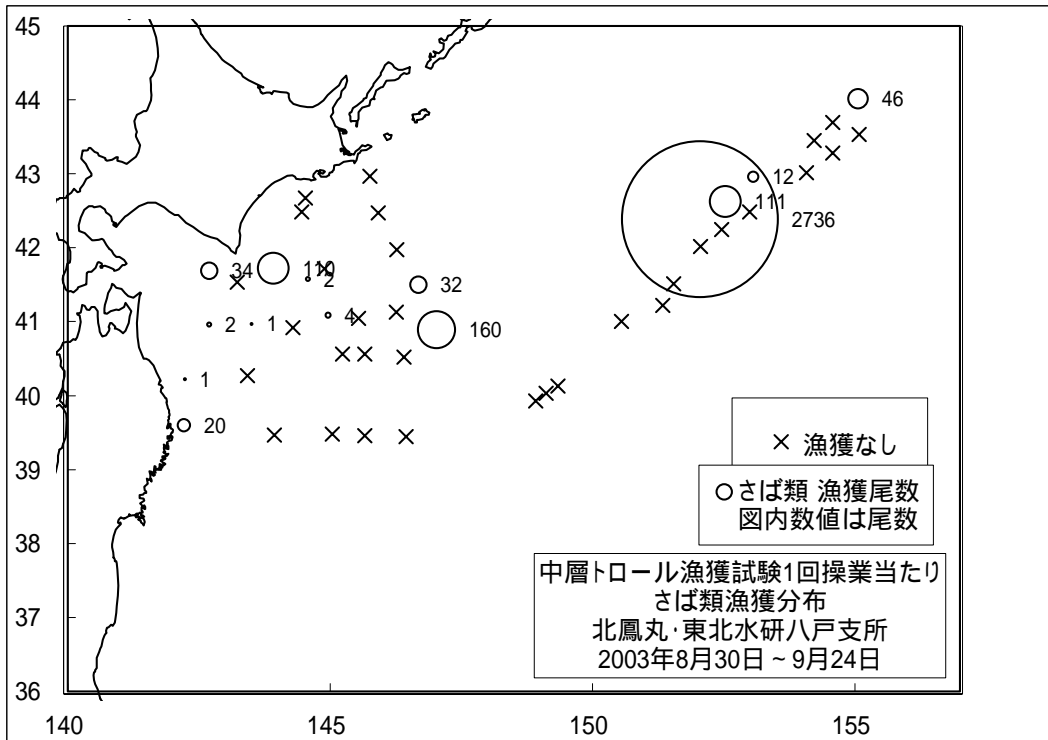


図1. 東北海域のまき網で漁獲されたさば類(マサバ,ゴマサバ)の体長組成



トロールは網口30×30m程度、夜間表層5ノット30分曳

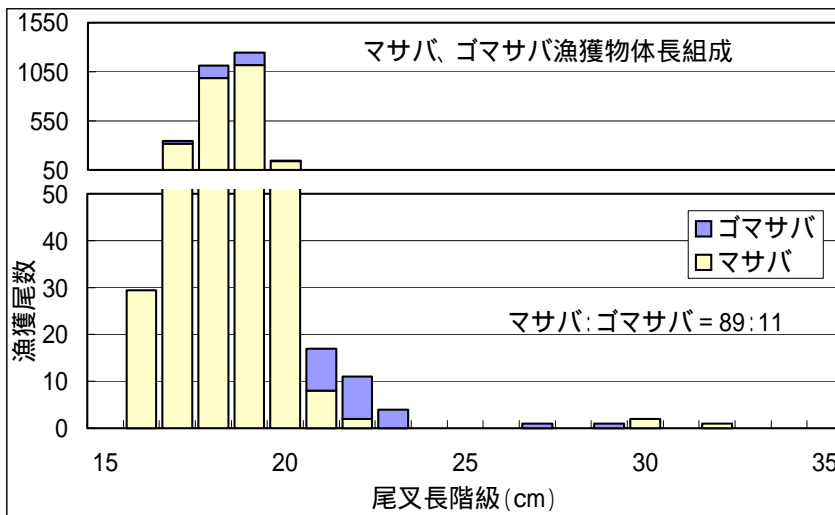


図2. 東北水研(用船北鳳丸)による中層トロール調査におけるさば類(マサバ、ゴマサバ)の漁獲分布と体長組成

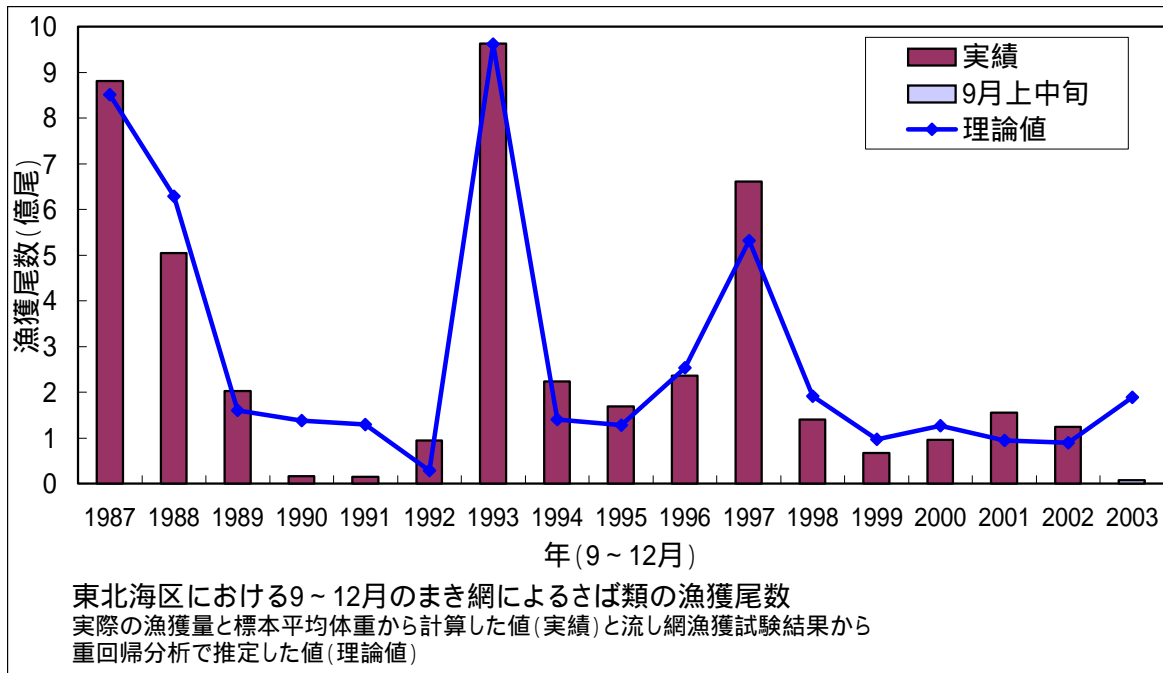


図3. 1987~2002年の各年8-10月の道東~三陸~常磐海域における各種目合の流し網漁獲調査によるさば類0歳魚・1歳魚以上それぞれの有漁獲点割合および平均漁獲尾数と、東北海区における南下期のさば類まき網漁獲尾数との間に有意な関係がある。また、流し網と中層トロールの比較試験から漁法間の漁獲尾数の関係が得られている。これらの関係をもとに、2003年の中層トロール調査結果から9~12月のさば類まき網漁獲尾数を計算したところ1.9億尾と推定された。